

## 審査の結果の要旨

氏名 清水大地

本論文は、ブレイクダンスを対象とし、独創的な表現が生成される創造活動過程の科学的な解明を目指して認知モデルの構築と実証的検討を行ったものである。

1章では、先行研究や熟達者への参与観察などの記録に基づき、ブレイクダンスの創造活動の特徴を整理した。結果、長期に渡る取り組みや他者との活発な相互作用を経て独創的な表現が生成されることが示唆された。これまでの創造活動の認知モデルでは以上の観点は考慮されておらず、上記のモデル構築には既存のモデルの拡張とその実証的検討が必要と考えられた。2章では、熟達者3名による現実の創造活動過程を取り上げ、その過程における重要な要素を抽出した。映像やインタビュー記録を分析した結果、領域内の技術の様々な側面に変更を加えて表現を生成したこと、長期的に取り組む中で変更を加える側面（創作観点）を変化させて独創的な表現を生成したことが示唆された。そこで3章では、上記した創作観点の変更と芸術家の創作過程に関する理論的研究を踏まえ、熟達者が活動に持ち込む『内的な制約』（該当領域や他領域の知識やそれらの理解・解釈）とその変更が影響をもたらすことを示すモデルを構築した。そして、熟達者1名の創造過程を多様なデータ（アイデアの内容や身体運動など）により検討した結果、熟達者は『内的な制約』の変更を経て独創的な表現を生成したこと、実施時の知覚体験が焦点化や変更を促す重要な役割を担っていたことが示唆された。そこで、以上の結果に基づきモデルを再構築した。次に4章では、他者との相互作用による影響を説明することが可能なモデル構築を目指した。先行研究を整理し、他者による影響を外側から創造活動に制限・促進といった影響を与える『外的な制約』として捉えるようモデルを拡張した。そして準熟達者14名を対象とした実験（ソロ条件とバトル条件との比較）を行い、上記過程を実証的に検討した。5章では、他者との相互作用時の集団レベルの振る舞いに着目し、両活動者の取り組みが影響を及ぼし合い、パターン化された集団の振る舞いが生じること、その振る舞いが時間経過により変化することを示すようモデルを拡張した。熟達者7名を対象とした実験によって上記の過程を実証的に検討した。

提案されたモデルは、先行研究の知見や実証的検討に基づき、ブレイクダンスの創造活動過程を包括的に説明している。該当領域の創造活動を科学的に説明可能であると同時に、活動を促す状況設定をモデルから推測することも可能と考えられる。また、領域知識の変更という観点から創造活動の熟達を捉える理論（Simonton, 2014）に対しても重要な知見をもたらすと考えられる。以上から、本論文は博士（教育学）の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。